

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.44(通巻 48 号)

平成 24 年 1 月 25 日発行

【目 次】

- こんなのあります ーいちおしレファレンス・ブッカー 【34】 …………… 1
課題解決型サービスと調べ学習ツール
- [小特集] 研修報告
 - ・平成 23 年度市町村図書館職員レファレンス体験研修【医療・健康情報研修会】 …… 2
 - 事後課題レポートから …………… 3
 - 新得町図書館 松本修子さん
 - 恵庭市立図書館 本間洋一さん
 - 湧別町中湧別図書館 北村公樹さん
 - ・第 7 回レファレンス協同データベース事業担当者研修会に参加 …… 6
- Librarian's Box(しよぼこ) 【29】 …………… 8
第 13 回図書館総合展/学術情報オープンサミット 2011 に行ってきました！
- 課員のつぶやき ー日々の業務からの短信ー 【31】 …………… 9
道民カレッジ連携講座 インターネット活用術
- レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介 (2011 年 9 月～12 月分) …………… 10
- レファレンス・サービスがテーマのマンガを紹介します …………… 11
- News …………… 12
 - 1 平成 23 年度市町村図書館職員レファレンス体験研修ー医療・健康情報研修会ー開催 (10/21)
 - 2 書庫ツアー開催 (11/3)
 - 3 道立アイヌ民族文化研究センター内研修講師 (11/9)
 - 4 道民カレッジ連携講座開催 (11/24, 12/15)
 - 5 市町村図書館職員レファレンス体験研修の実施 (2011/9～12)
 - 6 「法情報コンシェルジュ養成講座実施報告書」(ローライブラリアン研究会) について
 - 7 国立国会図書館サーチ (NDL Search) が本格稼働 (2012 /1/6)
 - 8 『図書館雑誌』 1 月号「れいふあれんす三題断」に当館が載りました。(2012/1)
- 『0.ton』連載「タイムトリップライブラリー 俺の青春時代、あの雑誌」が終了… 13
- 編集後記 …………… 13



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

課題解決型サービスと調べ学習ツール

DVD『図書館の達人 司書実務編 第3巻 課題解決型サービス』

(日本図書館協会企画・監修 紀伊国屋出版(発売) 2009.12)

請求記号：DVD/O15/TO-3 ￥25,000(本体)

課題解決型サービスとは、冒頭で糸賀雅児慶応大学教授が述べているように、難しいことをやる訳ではなく、「図書館が『地域の中に役に立つ施設である』」ということを確認していただける方を少しでも増やそうと言うのが、大きなねらいです。解説資料にもあるように、従来の図書館の枠組みのなかで図書館員が地域の課題に関心を持ち、図書館のサービスを通して地域をよくしていこうという意欲を持てば、どこの図書館でも取り組むことができるサービスと言えます。



課題解決型サービスの先進的事例として横浜中央図書館の「行政支援サービス」、神奈川県立川崎図書館の「ビジネス支援サービス」、東京都立中央図書館の「健康・医療情報サービス」、北海道恵庭市立図書館の「子育て支援サービス」、栃木県小山市立中央図書館の「農業支援サービス」が紹介されており、実際のレファレンス業務をする上で参考になります。

まとめとして、糸賀教授が課題解決型図書館に欠かせないものとして、「Contents (図書館資料の把握と新たな組織化)」、「Collaboration (他組織、関係機関との連携)」、「Communication (他機関や地域の人々とのつながりを深める)」の3つのキーワードを挙げています。

調べ学習の補助教材として、『調べ学習紙芝居シリーズ』があります。基本的な知識と一年生が初めて図書館を使うときのオリエンテーション用「図書館へようこそ」を加えた“本と図書館と調べ学習の初級者コース”6冊です。調べることが楽しくなる紙芝居です。

『調べ学習紙芝居シリーズ 1～6』

赤木かんこ文 きしらまゆこ絵 埼玉福祉商品事業部

2011.3～4 請求記号：KA/TOほか 各￥2,200(本体)

- 1 図書館へようこそ!
- 2 テーマのきめかた
- 3 百科事典の引きかた
- 4 本ってどうやってできたの? 上
- 5 本ってどうやってできたの? 下
- 6 本ってどうやってつかうの? (目次と索引)

※昨年12月に継続刊行された3冊も購入予定です。



※いずれも貸出しできますのでご利用ください。

平成 23 年度市町村図書館職員レファレンス体験研修 【医療・健康情報研修会】

平成 23 年 10 月 21 日に、北海道医療大学総合図書館協力のもと、「平成 23 年度市町村図書館職員レファレンス体験研修【医療・健康情報研修会】」を開催いたしました。

この研修は、医療・健康について住民の関心が高まっている今日、図書館としてどのような支援ができるのか、どういったことに注意が必要なのかなど、基礎的な知識を理解するための研修として、今年度初めて開催することとなり、全道から 10 名の参加がありました。

講義内容は次の通りです。

- ① 10:45～11:15 公立図書館における医療・健康情報支援の意義
- ② 11:15～12:00 医療・健康情報のニーズ
- ③ 13:00～13:30 北海道医療大学総合図書館 施設見学
- ④ 13:40～14:30 医療・健康情報におけるレファレンスサービス
- ⑤ 14:30～15:30 文献情報検索演習
- ⑥ 15:30～15:55 蔵書構築、地域連携について

①の講義については、当館利用サービス課企画主幹加藤より、公立図書館における医療・健康情報サービスについて、背景や歴史、実践例などの紹介を行いました。

その後、②～⑥の講義については、北海道医療大学総合図書館学務部次長の平紀子氏により進められました。

医療・健康情報のニーズについては、医療社会における変化の説明や様々な調査結果よりわかった点などの説明がありました。

北海道医療大学総合図書館の施設見学では、大学図書館ならではの専門的な蔵書に触れ、特に医学分野の配架については米国国立医学図書館分類法（NLMC）による分類をしている点に注目が集まりました。

医療、健康に関するレファレンスサービスを行うポイントとしては、質問者の疑問点を明確化することが重要であることが挙げられました。病気についての質問では、「予防」「病気（治療法）」「予後」という観点で分けられることから、利用者がどれを求めているかで調べ方や紹介する資料が変わっていくとのことでした。

医学系の情報は、最新のものを求められることが多く、また重要であることから、論文や会議録を調べることができる有料データベースが紹介され、また誰でも閲覧できるサイトも紹介されました。

この話の中で、雑誌に掲載されている論文は、最新情報や新しい知見が書かれているものであり、図書に掲載されている情報というのは定説（教科書的）となっているものであるということで、調査をする際にはこれを頭に入れておくと良さそうでした。

検索演習では、先に紹介されたデータベースである医中誌 Web や JDream II を実際に操作しました。今まで自分たちが受けた質問などを実際に調査することで、有効なツールの 1 つであることが認識できたと思います。

蔵書構築の話では、北海道医療大学総合図書館の実例を挙げながらの説明があり



【文献情報検索演習風景】

ました。ここの図書館では、参考図書やレビューなど新しいものが出版されたら必ず買い替えているそうです。公共図書館でも知っておきたい情報として、医学関係の図書は発行後3年が限度であり、古い資料は誤った情報が掲載されている可能性があるため買い替えをした方がよいという話があり、参加者は自館の書架を思い浮かべていたのではないのでしょうか。

1日日程ではありましたが、内容はかなり濃いものとなりました。北海道医療大学総合図書館を会場とさせていただいたことにより、専門的な資料やデータベースに触れることができたのはとてもよい経験だったと思います。次年度も開催を予定しておりますので、関心がある方は是非ご参加ください。

事後課題レポートから

参加者のみなさんに、研修を終えての所感や、今後自館で活かしていきたいことなどを、事後課題として提出していただきました。その中から、ご本人の了解を得て、3名の方のレポートをご紹介します。

新得町図書館 松本修子さん

当館で医療・健康に関するレファレンスを受ける回数は、一年に数件ではありますが、その時その時で利用者の希望に沿った資料を提供できているのか、不安なところがありました。また、レファレンスの受理数が少ない分野ということもあり、他の図書館が実施しているような特化したコーナーづくりをしていませんでした。

しかし、今年の9月に役場保健福祉課と合同で、うつ・自殺予防の図書・ポスター展を図書館で実施したところ、予想以上に反応や本の貸出しがあり、隠れたニーズがあったことがわかりました。今回の企画展示をしたことで、利用者からの要求を待つだけでなく、図書館側から積極的に情報を提供しなければいけないと強く感じました。

今回の医療・健康情報研修会を受けて、公共図書館でできる医療・健康情報の提供の在り方を学ぶことができました。司書に求められることとして、住民のニーズの把握や職員のスキルアップなどがあげられましたが、医療・健康情報に限らず、すべての分野のレファレンスに対応するために必要なことだ改めてと思いました。なかでも、地域住民が治療している病気を把握して情報を提供することが大切であるというところは、わかっているようでわかっていなかったと感じました。いろいろな疾病の資料をまんべんなく揃えるにはしていますが、地域住民の健康状態を把握しその資料を重点的にそろえるようにすれば、住民の健康に寄与することができるのではないかと思います。資料費の面で毎年資料を更新するということは難しいところもありますが、最新の治療法など新しい情報はインターネットを利用して入手することで、利用者の満足いく情報提供を行いたいと思います。そのためには職員が自館の資料を熟知することと、インターネットを利用する際は正しい情報源を知っておくことなど、情報リテラシー能力を向上させる取り組みを始めたい

と思います。

そして、北海道医療大学総合図書館の平紀子学務部次長からは専門図書館の立場から情報サービスの在り方を聞くことができ、また実際に医学文献データベースを検索することができ、公共図書館とは違う医学図書館の役割など勉強になりました。

今回の研修を活かして、自館でも医療・健康情報を積極的に提供できるよう展開していきたいと思います。

恵庭市立図書館 本間洋一さん

○研修を終えての所感

- ・ 医療健康情報に限ったものではありませんが、資料選定の際は、自館の利用者がどこまでの情報を求めているかを、的確に見極めることが重要と改めて理解しました。データベース系のサービスの提供を行っている公共図書館もあるとのことですが、過去のレファレンス事例を考慮するならば、同様のサービスを当館で行うことは、費用対効果を考えると有効ではないと感じました。
- ・ レファレンスの要領や選書等については、当館での通常業務で心がけていることと、大きな違いはないことを確認しました。ただ、職員間での対応に差異の無いよう、窓口での対応方法を館内で的確に整理しておくことも重要と感じました。

○自館で今後生かしていきたいこと・取り組みたいこと

- ・ この分野は、確実な効果が見込める取り組みが正直わかりにくい。まずは、予算をかけずにできることから試してみたい
- ・ パスファインダーを図書館のホームページで公開する際、内容をリンク集のような構成とし、有用サイトの紹介を主目的とする（作成・管理が比較的容易）
- ・ 闘病記コーナーが各地で人気とのことなので、まず特集コーナーを企画して反応を確認し、良好であればスペースを設けることを検討する
- ・ 絵本を紹介するリーフレットを作成・配布しているが、同様に医療関係資料のガイドを作成しても好評を得られると思われる。特集コーナーの設置時に、あわせて作成したい
- ・ 自治体内での連携（他部署のイベントに図書館のチラシを配りに行く等）は、比較的手軽に行えるもの。簡単などころから取り組んでいきたい
- ・ 職員全体の意識の統一・底上げも重要と思われる。難しい部分も多いが、提供側の足並みが揃わないとうまくいかないのでは、頑張りたいところ

湧別町中湧別図書館 北村公樹さん

今回、私が「医療・健康情報研修会」に参加しようと思ったのは、自館に設置した「医療コーナー」について、「本当に必要なのか？」という疑問を抱いていたからです。

しかし、この研修会に参加して、今の時代だからこそ「医療・健康情報コーナー」が必要なのだと学びました。

中湧別図書館は3年程前から「医療コーナー」として「NDC49」の図書を26のジャンル（闘病記、がん、循環器、心の病気、耳鼻、歯、睡眠、眼、整形外科、アレルギー、皮膚、泌尿器、女性の病気、子どもの病気、ウィルス、認知症、検査、救急、介護、病気全般、ダイエット、民間療法、薬、脳（科学）、食全般、その他）に区分・配架して来ました。この区分・配架の基礎は、町民が主として通院する主要病院の標榜科14科を参考としたほか、「NDC49」の図書の中でも利用が多くあるジャンルを抜き出し構成しました。また、この区分・配架に当たってもう一つ気をつけた点は利用者のプライバシーを尊重するという事です。利用者は自ら目的の図書にたどり着くことができるよう配慮しました。

しかし、課題も多々ありました。「NDC49」の配架の難しさです。1冊の本の中に複数の主題が入っているため、どのジャンルに配架すべきなのか判断に困りました。また、数ある医療図書の中からどの図書を選択すればよいのか、あまりに専門的すぎて確信を持てません。また、このコーナーは手間がかかる割には利用が少ないのです。

選本・分類・整理・配架、更にはコーナー存続の疑問を抱きつつ時間だけが過ぎて行く中、この研修会に出会いました。

私はこの研修会に参加して、今の社会だからこそ医療・健康情報コーナーが必要なこと。司書の資質向上が必要なこと。関係機関との連携が大切なこと。NDC分類にとらわれず配架工夫すること。医療図書はもって3年など考えの基礎となる部分を学びました。

今の社会だからこそ医療・健康情報コーナーが必要だというのは、高齢社会、医療法の改正、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、マスメディアによる医療・健康情報に溢れる社会、私たちは自己の病気に対し自己判断自己責任を負う社会となっているのです。そんな中、我々司書に求められていることがあります。それは地域の情報を知ること。地域の年齢構成、多い病気、医療機関など医療・健康情報を提供するに当たって地域の状況を把握する必要があります。また、積極的にスキルアップを図ることも必要です。そして、現状を把握するためにも関係機関との連携が必須です。

この他、常に留意する点もありました。それは限度を過ぎたサービス提供とならぬよう次の3点を守ることです。（東京都立図書館を参考）

- ①このサービスは、資料や情報の提供のみを行うものです。医療上のアドバイスはいたしません。
- ②当館では、診断、治療、薬についての判断はいたしません。
- ③当館は、このサービスを利用される方のプライバシーを守ります。

今回の研修会に参加して、私は「医療・健康情報コーナー」が必要であるという大前提を認識できたことが大収穫でした。

この研修会を企画、協力してくれた道立図書館、北海道医療大学図書館関係職員の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

第7回レファレンス協同データベース事業担当者研修会に参加

皆さんは、国立国会図書館のレファレンス協同データベース（以下「レファ協」と略）<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>を活用していますか？ 様々な館種がデータ提供しているこのデータベースは、レファレンスをする上で大変便利です。道内公共図書館では当館のほか、札幌市、石狩市、釧路市、留萌市、恵庭市、登別市、紋別市が参加館になっています。参加館の利点は、参加館のみ公開のデータを見られたり、自館でレファレンス事例データベースを構築しなくても、レファ協の中に直接自館のデータを蓄積できるので、費用や手間をかけずに自館のデータベースとして使えるなどです。

平成23年7月6日に国会図書館東京本館で開催されたこの研修会は、レファ協のデータ登録や活用方法について学ぶもので、東日本の公共、大学、専門の各図書館から23名が参加。講師は国会図書館の佐藤久美子氏と、青山学院大学の小田光宏教授。事前課題として、データ登録1件（レファレンス事例または調べ方マニュアル）、サンプル事例へのコメント付与1件がありました。

研修会の内容から、まだ参加館ではない図書館でも参考になりそうなことを中心に記します。



1 レファ協の概要

【目的】様々な館種のレファレンスに関するデータを蓄積・公開し、図書館等のレファレンス・サービスや一般利用者の調査研究活動を支援する。

【データ種類】レファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション、参加館プロフィール

【経緯】平成14年に実験事業として開始。平成16年、データベースを参加館に公開。平成17年に本格事業化、データベースを一般公開。平成18年、参加館随時募集へ

【参加館540館（H23.5末現在）内訳】 公共：342 大学：14 専門：46 国会：11

【データ登録数（H23.5末現在）】 67,492件

【データ登録の現状】コンスタントに登録している図書館とそうでない館の二極化

- ・ 参加館のうち登録件数0件の館・・・93館（全参加館の17.2%）
- ・ 参加館のうち登録件数1件の館・・・114館（全参加館の21.1%）
- ・ 登録件数上位10館が約50%のデータ提供
- ・ 上位1割（54館）の図書館が約83%のデータ提供

【DB活用方法】

図書館員：研修教材として、レファレンス情報源として、サービス改善のためのデータとして、サービスのPR素材として、選書の参考にも

一般利用者：レファレンス・サービスのよりよい活用のため、調べ物の情報源として

研究者：図書館情報学の研究素材、司書養成の素材、その他研究素材として

2 レファ協の機能とその活用

【データを公開する範囲】①自館のみ参照 ②参加館公開 ③一般公開

※参加館が事例データごとに決められる。変更も可能

【参加館公開の条件】①個人のプライバシーが尊重されている ②質問者の特定につながる恐れがない ③差別表現等の点で問題がない

【活用しやすいデータとは】①多様なアプローチで検索できる ②検索されたデータが役に立つ

③3層の利用者を意識（自館職員<他館職員<一般利用者）

※記録を読んだ人が、何かを調べ直さなくてもたどれる記録が望ましい。

※活用しやすいデータ ⇨ 読むと面白いと感じるデータ

【登録方法】①ウェブフォーム ②データ作成支援ツール ③自前のシステム

※登録方法によって、メリット・デメリットがあるので注意

【データの品質向上のための参加館支援機能】

①コメント機能 ②掲示板機能 ③電子メール配信機能

3 データ作成にあたって

- ・ 『データ作成・公開に関するガイドライン』（国会図書館HPに掲載）をよく理解する。
→目安であってマニュアルではない。指針であって入力規則ではない。
- ・ データフォーマットの項目に対する理解を深める。項目数が多く、「回答」「回答プロセス」「参考資料」等記述が重複しそうなものがあるが、厳密に書き分けなくてもよい。
- ・ 誤記、特に固有名詞や数字、年号等の間違いは、見た人が気付きにくいので要注意
- ・ 「キーワード」は、質問や回答に含まれない語だと検索性が高まる。
- ・ 難しい事例が多く、よく聞かれる事例が少ないとの声もある。クイック・レファレンス事例もOK
- ・ 未解決事例も登録を。レファレンス協同データベース事業企画協力員がサポート。公開することで情報が寄せられることも
- ・ 多忙で手が回らなければ、事務局が遡及入力支援も行っている。
- ・ コメント機能の活用
 - ①情報提供（他の回答、情報源の提示等） ②意見表明（感想、賛辞、質問等）
 - ③連絡事項（コメント付与への感謝ほか）

※ ガイドラインをよく理解し質を保ったうえで、細かいことは悩まずに、どんどん登録すべし

※ データ件数を増やし、更に役立つ便利なデータベースに

4 その他

全員の事前課題に小田先生がコメントを付した配付資料は、レファレンス事例の書き方やコメントの付け方のよい例、注意すべき点を学ぶ上で、とても参考になりました。またグループ討議では各館種が混じり、レファ協の有効な活用方法や、改善・向上策などについて話し合いました。事後課題は、他の参加者の作成データへのコメント付与、事前課題のデータを整備して本登録（参加館公開または一般公開）、レポート、アンケート回答でした。

事例登録からコメント付与まで一連の流れを経験することで、見えてくるものがありました。講師陣、事務局から一貫して感じたのは、とにかく登録事例をもっと増やして、使える便利なデータベースにしたいという強い思いです。「こんな事例は登録に値しないのではないか」とか、「記入欄にたくさんある項目をどう書き分ければよいか」などと悩む必要はなく、プライバシー保護などの最低限のことさえ押さえれば、細かいことは気にせずどんどん入力してほしいとのことでした。検索できてこそそのデータベースです。

当館は、レファ協へは当初から参加していましたが、なかなか件数を増やせずにはいました。今回の研修を活かし、日常業務として早く軌道に乗せたいと思います。未参加館の皆さんも、まずは参加館プロフィールや特別コレクション紹介等から参加してみませんか？

※研修会の配付資料と事後課題の優秀レポートは、国会図書館のホームページで公開中
http://crd.ndl.go.jp/jp/library/institute_7.html

Librarian's Box (ししょぼ) 【29】

第13回図書館総合展/学術情報オープンサミット2011に行ってきました！

皆さんは“図書館総合展”（以下「総合展」と略）をご存じでしょうか。11月9日（水）～11日（金）の3日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で開催されました。今回で13回目を迎えるこの総合展は、公私を問わず、全国から多くの図書館関係者が集います。当課から2名参加しましたので、その様子的一端をご紹介します。



主催は図書館総合展運営委員会（JCC カルチャー・ジャパン）というところです。総務省、文部科学省、経済産業省、国立国会図書館、国立公文書館、国立情報学研究所、国公立大学図書館協力委員会、日本図書館協会など錚々たる機関が後援しています。

内容としては、テーマを設けての特別フォーラムがあり、その他9会場70種近いプログラムがありました。パネル展示やポスターセッションも盛んに行われています。参加者は、その中から興味のあるものを自由に選んで参加することができ、その多彩さに目移りするほどです。また、大ホールには80社を超える企業・団体による出展者ブースがあり、図書館に関連する様々な最新技術や新商品、情報を提供しています。

参加費は基本的に無料ですが、開催が近くなると配付される出展者からの“招待券”が必要になります。（入手は比較的容易です。道立図書館へお問い合わせください。）

今年の特別フォーラムは、9日「東日本大震災からの復興と震災への備えに向けて」第1部「東日本大震災、そのとき図書館は」、第2部「支援・支援を振り返る—未来への反省」、第3部「非常時からの復興、そして平時の備え」、10日「電子書籍時代の図書館—次世代の文化創造に向けて」の2つが行われました。

9日の第1部では、東日本大震災の方は被災地である宮城県図書館、岩手県立図書館、福島県立図書館から講師が招かれ、震災のリアルな実情を知ることができました。第2部では、支援した側の意識や活動についての情報提供があり、何が必要とされ、何が不十分だったのかなどの意見交換が行われました。第3部では文部科学省、総務省など国の機関の職員と「震災文庫」開設に携わった神戸大学附属図書館の職員が震災資料のアーカイブ化などについてこれからの方向性について話されました。

10日は、北海道図書館大会（9/1-2開催）で、基調講演講師をお願いした湯浅俊彦氏（立命館大学文学部准教授）がコーディネーターとなり、浅野隆夫氏（札幌市中央図書館）も「札幌市中央図書館の電子図書館実証実験」の発表をするなど、北海道の動きを発信していました。また、角川グループの取締役会長・角川歴彦氏を含めて、パネルディスカッション「図書館における実践的電子書籍活用法」も行われました。

今回の総合展の参加者は、3日間で25,631名、過去最高だったそうです（ちなみに今年度の全国図書館大会（多摩）の参加者は1,600名）。全国の図書館の動向や最先端の技術、他館種の情報を知るために、総合展は絶好の場だと感じました。総合展の一部フォーラムのレポートおよびインターネット上のライブ中継サービス“Ustream”録画が公開されています。是非ご覧ください。

図書館総合展ホームページ：<http://2011.libraryfair.jp/node/282>

課員のつぶやき 一日々の業務からの短信—【31】

道民カレッジ連携講座 インターネット活用術

当館では今年度も「道民カレッジ連携講座 インターネット活用術」として、11月24日(木)に「(1)検索エンジンを上手に使おう」、12月15日(木)に「(2)図書館員が選んだお役立ちサイト」を開催しました。本講座では、有用なインターネット情報を効率よく収集する方法を、当館が持つ情報検索などのノウハウを用いて解説するとともに、暮らしの課題解決にはインターネットと図書館資料を併せて活用することが有効であることを解説しました。当館には受講者がパソコンを多数使える会場がないため、当館から徒歩5分程の、隣接する北海道立教育研究所附属情報処理教育センターの一室をお借りしました。参加者は各日12名、11名、運営者は利用サービス課職員3名でした。「(1)検索エンジンを上手に使おう」では初心者向けに、代表的な検索エンジンであるYahoo JapanとGoogleの効率的な使い方などについて講義・実習を行い、「(2)図書館員が選んだお役立ちサイト」では、生活に役立つサイトということで、レシピ、天気情報、地域の防犯、消費者問題、金融、いろいろな計算を試算するサイト等、今まで紹介したことのないサイトも新たに紹介して、各サイトの特徴や使い方についての講義・実習を行いました。

私は「インターネット活用術」の講師をするのは初めてで、「(2)図書館員が選んだお役立ちサイト」の前半部分を担当しました。まず、生活に密着したテーマを探し、「レシピ」「天気情報」と決めました。次に、受講者はどのような事に興味があるのか、必要としているのかを考えながら、生活に役立つサイトを探しました。例年この講座の受講者は高齢者が多く、平均年齢も高いことから、健康に関するサイトには需要が多いのではないかと思います、**テルモ健康天気予報** <http://kenkotenki.jp/> をとりあげてみました。また、普段テレビで見ている番組のサイトなら親しみやすいのではないかと思います、**ためしてガッテンレシピ集** <http://www.nhk.or.jp/gatten/recipes/> を、逆に受講しなければ関わりがなさそうなサイトとして、**北海道ぎょれんおすすめレシピ** <http://www.gyoren.or.jp/cooking/index.html> を選んでみました。

当日実際に講師をしてみると、講義だけでなく各自のパソコン操作実習があるという点と、受講人数が多い点に難しさを感じました。受講者の機器操作等にレベル差があるため、それらも含め説明を進めていく必要があり、通常は初心者のレベルに合わせるべきですが、あまり合わせ過ぎると時間が不足し、内容が薄くなってしまいますので、じっくりとした説明と練習問題的なところの区別をはっきりするなど、進行の工夫が必要だと感じました。アンケートの「今回の講座の中で一番役に立ったホームページは？」では、お金や記念日など生活に役立つ計算の試算ができる計算専門ポータルサイト **Keisan** <http://keisan.casio.jp/> や、峠の吹雪情報などがある**北海道の道路情報総合案内サイト 北の道ナビ** <http://northern-road.jp/navi/> が人気でした。



今回の講座では、図書館で図書館資料を使ってではなくてインターネットを使ってということと、日常生活に役立つ情報ということで、改めて別な角度から情報検索という事に興味をもってもらう事ができたのではないかと思います。また、図書館利用者の生涯学習に対する熱意の高さを強く感じました。

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2011年9月～12月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページの順に記載
(参考: 国立国会図書館NDL-OPAC 雑誌記事索引 MAGAZINE PLUS)

- 1 れふぁれんす三題噺(その 184) 外務省外交史料館の巻 外務省外交史料館のレファレンス活動 外務省外交史料館閲覧室 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(9) (通号 1054) [2011.9] p. 636~637
- 2 レファレンスサービス評価法としての覆面調査の設計と試行—日本の公共図書館を対象とした調査方法の提案 五十嵐花織 須賀千恵 『図書館界』 日本図書館研究会 63(3) (通巻 360) [2011.9] p. 232~246
- 3 慶応義塾大学における電子学術書利用実験プロジェクト—実験からみえてきたもの 島田貴史 『情報管理』 科学技術振興機構 54(6) [2011.9] p. 316~324
- 4 オンライン百科事典「ポプラディアネット」—学校における活用事例 梅津健志 飯田建 『情報管理』 科学技術振興機構 54(6) [2011.9] p. 325~334
- 5 健康・医療情報サービスを課題解決型サービスと位置づけることへの違和感 石井保志 『みんなの図書館』 教育史料出版会 (No. 413) [2011.9] p. 40~44
- 6 論文 日野市立図書館市政図書室における地方行政資料サービス 徐有珍 『日本図書館情報学会誌』 日本図書館情報学会 57(3) [2011.9] p. 71~87
- 7 研究ノート レファレンス質問への回答を可能にしたレファレンスブックの特性に関する研究 間部豊 小田光宏 『日本図書館情報学会誌』 日本図書館情報学会 57(3) [2011.9] p. 88~102
- 8 特集 悩める図書館全国809市区調査—サービス向上と財政難のはざままで 若杉敏也 『日経グローバル』 日本経済新聞社産業地域研究所 (No. 179) [2011.9.5] p. 10~27
- 9 レファレンス記録から(2)葉っぱでイチョウのオスメスがわかるって本当? 杉山きく子 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(10) [2011.10] p. 12
- 10 座間市立図書館における「調べる学習」への取り組み(特集 探求学習と学校図書館) 三村敦美 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(10) (通号 1055) [2011.10] p. 689~691
- 11 れふぁれんす三題噺(その 185)京都市立堀川高等学校図書室の巻 探究型学習に育てられる学校図書館—「すべては君の「知りたい」からはじまる」を支える 池元小百合 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(10) (通号 1055) [2011.10] p. 700~701

- 1 2 意外と使える図書館が提供するビジネス支援サービス 『企業実務』 日本実業出版社 50(13)
(通号 697) [2011. 10] p. 86~88
- 1 3 片山善博総務大臣 特別講演 学校図書館と知の地域づくり〔含 玉山哲副理事長(全国教科用
図書卸協同組合)代表質問〕 片山善博 『こどもの本』 日本児童図書出版協会 37(10)
[2011. 10] p. 78~79
- 1 4 特集 子どもの「?(ハテナ)」に大人が寄り添う あうる 『あうる』 図書館の学校 (No. 103)
[2011. 10] p. 2~35
- 1 5 地域再生の現場を行く(第 131 回) 地域活性化担う図書館。起業支援や就農・就活相談(栃木
県、小山市立中央図書館) 竹本昌史 『経済界』 経済界 46(19) (通巻 952) [2011. 10. 4]
p. 2~5
- 1 6 特集 図書館実践(サービス)の最前線(2) 東京学芸大学における「先生のための授業に役立つ学校
図書館活用データベース」の展開と可能性 中山美由紀 『図書館界』 日本図書館研究会
64(4) (通巻 361) [2011. 11] p. 314~319
- 1 7 特集 生涯学習の拠点“図書館”のいまとこれから 『市政』 全国市長会館 60(12) (通号 713)
[2011. 12] p. 17~29

レファレンス・サービスがテーマのマンガを紹介します

『夜明けの図書館』(埜納タオ著 双葉社 2011.10)

市立図書館で働く新米司書・ひなこが、日々利用者から投げかけられる質問を調べていく、レファレンス・サービスを正面から取り上げている本格的図書館マンガです。

利用者から持ち込まれるのは、「ある写真を探している」「くずし字の手紙の読み方」などわたしたちの実際の業務でもありそうな質問です。新米司書のひなこがそれらの質問をどう回答していくのか、図書館職員なら思わずあるあると言ってしまうような作品です。

道立図書館で所蔵していますので、興味のある方はご利用ください。

NEWS

1 平成23年度市町村図書館職員レファレンス体験研修―医療・健康情報研修会―開催 (10/21)

医療・健康情報サービスを行うにあたって理解しておきたい基礎的な知識、専門機関が取り扱う学術情報の概要等に理解を深め、業務への応用力の定着を目指し、北海道医療大学総合図書館学務部次長平紀子氏を講師に迎え北海道医療大学総合図書館で研修を行いました。4市4町の図書館から10名の参加がありました。

2 書庫ツアー開催 (11/3)

今年度3回目となる書庫ツアーを11月3日(木)に開催しました。当日は16名の参加がありました。第4回目は平成24年2月2日(木)開催です。

3 道立アイヌ民族文化研究センター内研修講師 (11/9)

当課および北方資料室職員が道立アイヌ民族文化研究センター内の職員研修で、インターネットを利用した情報検索の方法について講義しました。また、センターの機器を使用し、有用なインターネットサイトの使用の操作や利点の説明などを行いました。

4 道民カレッジ連携講座開催 (11/24, 12/15)

11月24日(木)に、道民カレッジ連携講座「インターネット活用術(1)検索エンジンを上手に使おう」を、12月14日(木)に、「インターネット活用術(2)図書館員が選んだお役立ちサイト」を開催しました。各日12名・11名の参加がありました。

5 市町村図書館職員レファレンス体験研修の実施 (2011/9~12)

9月から12月にかけては、栗山町と芽室町の2館3名の職員が来館してレファレンス体験研修を行ないました。

栗山町の研修は1日日程で、レファレンス業務全般の研修を行いました。

芽室町の研修は、2日日程ということで、インターネットを利用した専門情報の調べ方について重点を置き研修を行いました。(9/28 栗山町2名、12/14・15 芽室町1名)

※ 引き続き研修申込みを受け付けております。受講を希望される際には、当課までご連絡ください。なお、実施要項を、当館ホームページ「図書館ポータル」に保管しています。

6 「法情報コンシェルジュ養成講座実施報告書」(ローライブラリアン研究会)について

平成22年度図書館振興財団助成事業である「法情報コンシェルジュ養成講座」は、ローライブラリアン研究会主催で全国6か所で開催され、北海道においても、平成23年1月に当館と札幌市中央図書館が協力し、札幌市中央図書館を会場に道内から112名の図書館員等が参加して行われました。

この報告書が次のリンク先からダウンロード可能です。

<https://skydrive.live.com/redir.aspx?cid=5f8c6cd6280fe1d9&resid=5F8C6CD6280FE1D9!121>

内容は「実施概要(実施スケジュール等)」「養成講座使用教材例(鳥取県立図書館)」「アンケート結果(全会場分)」です。ぜひご覧ください。

7 国立国会図書館サーチ(NDL Search)が本格稼働(2012/1/6)

Do-Re47号の「Librarian's Box」でもお知らせしていました国立国会図書館サーチが本格稼働しました。それとともない国立国会図書館のサービスに変更があります。詳しくは国立国会図書館のホームページをご確認ください。

8 『図書館雑誌』1月号「れふあれんす三題噺」に当館が載りました。(2012/1)

連載「タイムトリップライブラリー 俺の青春時代、あの雑誌」が終了

『O. ton』(オトン) Vol.15 (あるた出版 2009.7) から始まったこの連載は、読者が青春時代に夢中になって読んだ雑誌をもう一度読みたいという願いを、札幌市中央図書館地下書庫所蔵の雑誌で叶えてもらうコーナーです。好評のなか Vol.36 (2011.10) の22回をもって終了しました。道立図書館は Vol.18 (2010.1) より、札幌市中央図書館が所蔵していない雑誌を協力貸出で提供するという役割で16回登場しています。『ミュージック・ライフ』『カーボーイ』『平凡』『メンズクラブ』など16誌が道立図書館所蔵の雑誌として紹介されました。

取材窓口を担当された札幌市中央図書館の千葉業務課長もおっしゃっていましたが、この連載を通して読者に図書館の保存機能や相互協力についてPRできたことはとても大きく、また毎号の読者からの反響も多かったそうです。

道立図書館では北方資料室で『O. ton』を創刊号から所蔵しています。機会がありましたらぜひ、記事をご確認ください。

編集後記

- ◆ 年末に課の棚を整理していた時に、私が図書館に勤め始めた頃(10年ほど前)にまとめた「使えるサイト集」のファイルが出てきました。あの頃と比べて、インターネット上には多くの情報が掲載され、レファレンスには欠かせない一方、その情報を探すのに一苦労します。情報を探すのに困ったときには、当館ホームページに掲載しているお役立ちリンク集『Do-Links』をぜひご活用を。医療・健康情報に関するホームページも掲載しています。(on)
- ◆ 道民カレッジ連携講座の「図書館員が選んだお役立ちサイト」のためいろいろなサイトを調べていて、見落としている機能が結構あることを発見。サイトの説明やヘルプを活用しなくてはいけないあと改めて実感しました。(H)
- ◆ 図書館総合展には一昨年(第12回)初めて参加し、今回が二度目ですが、「なぜ今まで知らずにいたのだろう」と不思議に思うほど、大規模でバラエティに富んだプログラムを持つ展示会です。企業主催や展示が多く、図書館は、図書館と利用者だけで成り立っているのではないことを実感できます。視野を広げるには絶好の機会だと思いました。(Ku)
- ◆ 「インターネット活用術」の講座運営に初めて関わり、図書館利用者の生涯学習に対する熱意の高さ、特にご高齢の利用者の熱意を目の当たりにして、見習わなくてはと思いました。(k)
- ◆ 今回、「こんなのあります」でご紹介したDVD『図書館の達人 司書実務編 第3巻 課題解決サービス』は、ヒントが満載で本当に必見です。(S)
- ◆ 小特集はいかがでしたでしょうか。当館で初めて取り組んだ医療・健康情報研修会に参加された3名の方のレポートも掲載させていただきました。快諾いただきありがとうございました。研修は、受けた後どう活かしていくかが大事と私自身に言い聞かせつつ、みなさんとも情報を共有しながら、ともにステップアップを目指しましょう。本年もよろしくお祈りします。(Z)



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしよかんレファレンス”の
略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAI DO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.44(通巻48号)

発行年月日 平成24年1月25日
編集 北海道立図書館利用サービス課
発行 北海道立図書館
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
e-mail: sancho@library.pref.hokkaido.jp
